

# あなたが何気なく知ったこと それは社会を変える大きなきっかけ



”髪がない”ことで生涯かかえる問題を知ってもらい  
誰もが生きやすい未来をつくりたい

脱毛症、抜毛症、乏毛症、無毛症、治療による副作用などにより、髪に症状をもつ方々と、ご家族のコミュニティを中心に活動をしているNPO団体です。髪のない人に100人に1人とされています。「1人で抱えなくてもいい」と感じてもらえるような機会を提供していくと共に、一人ひとりが理解・尊重しあえる社会を目指しています。

## 小中学校での研修内容

髪に症状のある子どもたちが、よりよいサポートを受けられるよう、先生達にむけて講座を開いています。

髪がない=ストレスとはかぎりません。その思い込みで、多くの当事者と、その親御さんが悩まれています。

発達障害、LGBTQなど、近年理解が深まってきたものがあるように、髪のないことも受け入れられる社会に向けて。

## 先生方が知って頂くことで、世の中の常識を変えられます

髪がないことが、あることよりも劣っているかのような空気感。そんな空気感をなくしたい。こんな人もいるよね。そんな感覚の子どもたちが、きっと未来を変えてくれると信じています。

保護者だけで子どもを支えられる時期はとても短いものです。思春期を迎えるときにどれだけ保護者が寄り添ってくれていても、当事者であるお子様は自分のことを「独り」だと感じてしまい、自ら命を絶ってしまう子どもたちがいます。髪を失う原因は先生方の予想以上に多くあります。私たちのことを知っていただくことで、先生方が与えてあげられる支援の幅が広がることと思います。長期休みなどの研修にご活用ください。

特定非営利活動法人 Alopecia Style Project Japan (ASPJ)

〒104-0061 東京都中央区銀座一丁目22番11銀座 大竹ビジネス2階  
03-6683-2376 <https://aspj.site/>

各種お問合せ

公式HP



講演依頼



著名のご協力をお願いします!

高額なウィッグの  
助成金サポート対象を  
全てのヘアロス当事者まで  
拡大して欲しい!



見た目にハンディキャップがある私たちだからこそ伝えられるものがあります

## 100人に1人。あなたの学校にも 人知れず悩んでいる生徒がいます

イジメにあったらどうしよう

恥ずかしい

プールの時どうしよう

髪型の話になると気まずいな

マット運動はウィッグがずれちゃうよ

体育休みたいわけじゃないのに

変だと思われる…

みんなに知られたくない

宿泊学習の時どうしよう

カミングアウトしないといけないの？

私みたいな子はいない

誰もわかってくれない

私たちのことを知ってください

## 先生方の長期的なサポートが必要です

髪の毛にハンディキャップがある子ども達の5年後10年後まで見据えた支援をお願いします

### 参加された先生方の声

100人に1人、自分の近くにある問題だと感じる事ができました。

髪を失うという事象を何とかしようと、そこにばかり目がいていましたが、その子の得意なこと、がんばっていることを認めていくことが大切だと感じた。

ヘアロスは、「特徴のひとつ」であるという認識でいることで、もっとその子自身に向き合おうと思えました。

職業柄人権意識は高い方だと思っていたけれど、当事者だからこそその傷つく場面を知り、反省した。人権問題について知ることが差別を生まないことにつながると感じた。

教職経験者が関わって研修内容を考えていただいたということで、私たちの立場も考慮した支援を提案していただけて良かった。私たちの相談窓口も増えて嬉しい。

